

| | | | |
|------------|------------------------------|---------|----|
| ふりがな 氏名 | いまい あいこ 今井 あい子 | 職名 | 講師 |
| 取得学位 | 博士(スポーツ健康科学) | 学会での受賞歴 | |
| 主な担当科目 | 地域作業療法学演習 | | |
| 所属学会 | 日本体力医学会, 日本公衆衛生学会, 日本作業療法士協会 | | |

◆ 教育業績

| 事項 | 実施年月(日) | 概要 |
|---------------------------------|---------------------|---|
| 1 教育方法の実践例 1) 基礎作業学 | 2020年4月～ 2023年3月 | 作業療法における作業とは何か、作業科学での定義、アメリカ、カナダにおける定義を紹介した。また、人と作業の関係、意味のある作業の遂行が心身の健康に及ぼす効果について、日常での例を示しながら理解できるように図った。加えて、作業療法の臨床場面や治療効果を深く理解してもらうため、過去に作業療法を受けたクライアントを講師として招き、クライアントの立場から感じた作業療法の効果について講義いただいた。 |
| 2) 検査測定実習 | 2020年9月～ 2023年3月 | 作業療法評価学に関連する科目は、2011年より携わっている。2020年度後期からは、授業内容を先取りする反転学習を取り入れることにより、授業時間内での実技指導や練習時間を増やし、検査測定方法の知識、技術の習熟を図った。 |
| 3) 地域作業療法学・地域作業療法学実習 | 2020年9月～ 2023年3月 | 地域作業療法学に関連する科目は、2011年より携わっている。その際は、障害者支援施設への見学を実施し、障害児・者の方とその家族の生活状況やニーズ、支援方法や課題について学ぶ機会を設けた。2020年度後期からは、障害児・者の方が、地域社会で安心して、その人らしく暮らすために必要な物的・人的環境のあり方や調整方法について紹介し、学生の理解を促した。 |
| 4) 身体障害作業治療学Ⅱ 身体障害作業治療学Ⅱ実習 | 2021年4月～ 2023年3月 | 身体障害作業治療学に関連する科目は、2011年より携わっている。2021年度前期からは、臨床場面の動画を取り入れながら講義を行った。 |
| 5) 作業療法研究法・総合演習 | 2021年4月～ 2023年3月 | 学士の学位取得後も研究的な視点を持って臨床業務に従事する能力や社会への発信力の育成を目的として、研究法に関する科目では、卒業論文の完成に加え、学会での研究発表を最終目標として指導を行った。担当したゼミ学生の半数は、大学卒業後2年以内に作業療法関連の学会で発表を行った。 |
| 6) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ・Ⅳ(総合実習) | 2021年7月～ 2023年3月 | 臨床実習の一環として客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination: OSCE)を取り入れ、評価や治療技術の習得度合いの確認、不足部分への教育的支援を計画・実施した。 |

| 事 項 | 実 施 年月(日) | 概 要 |
|---|---------------------|--|
| 2 作成した教科書, 教材 1) 国家試験対策の教材 (オンライン資料) | 2020年2月～ 2023年3月 | 国家試験対策の一環として, 遠隔講義を行った. その際, 繰り返し学習による知識の定着を目的に YouTube を用いた資料を作成した. |
| 2) 検査測定実習の教材 (ワークブック) | 2020年2月～ 2023年3月 | 基礎医学科目で学んだ骨・筋系の反復学習を促進するため, 筋に色を塗り, 起始・停止, 作用, 特徴などをまとめるノートを教材として作成した. |

◆ 研究業績

| 区 分 | 著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称 | 単 ・ 共 | 発 行・ 発 表 年月(日) | 発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名) | 備 考 |
|-----|---|-------------|----------------------|--|---|
| 著 書 | 医療人の底力実践(第4版) | 共 | 2023年3月 | 三重大学出版. | pp.59-70 |
| 論 文 | 自律神経バランスと心理・行動障害の 関連性についての事例検討. (査読付) | 共 | 2018年4月 | 岐阜県作業療法士会「岐阜 作業療法」第19巻 | 立岩慧士, 木村大介, 富山直輝, 今井あい子, 山田和政. pp. 26-30 |
| | 認知症高齢者の主観に基づく評価法 の有用性の検討. (査読付) | 共 | 2018年4月 | 岐阜県作業療法士会「岐阜 作業療法」第19巻 | 千原壮智, 木村大介, 富山直輝, 今井あい子, 山田和政. pp. 21-25 |
| | 共分散構造分析を用いた神経心理学 的要因が日常生活動作 (ADL 動作) に 与える影響に関する検討. (査読付) | 共 | 2018年4月 | 岐阜県作業療法士会「岐阜 作業療法」第19巻 | 石川真太郎, 成田敦士, 今井あい 子, 木村大介, 山田和政. pp. 15-20 |
| | 認知症高齢者の行動・精神症状 (BPSD) と自律神経活動の関連性. (査読付) | 共 | 2018年8月 | 日本作業療法士協会「作業 療法」第37巻 | 木村大介, 能登谷晶子, 今井あい 子, 大歳太郎. pp. 342-348 |
| | 作業遂行に影響する要因の予備的検 討. (査読付) | 共 | 2019年9月 | 「健康レクリエーション 研究」第15巻 | 石川真太郎, 木村大介, 今井あい 子, 山田和政. pp. 61-64 |
| | Association between non-locomotive light-intensity physical activity and depressive symptoms in Japanese older women: A cross-sectional study. (査読付) | 共 | 2020年3月 | 「Mental Health and Physical Activity」 | Aiko Imai, Toshiyuki Kurihara, Kimura Daisuke, Noriko Tanaka, Kiyoshi Sanada. e100303 |
| | Adverse associated with the locomotive syndrome with sarcopenia on walking ability and performance of activities of daily living among Japanese elderly females. (査読付) | 共 | 2020年3月 | 「Journal of Physical Therapy Science」 32(3): pp. 227-232 | Tomohiro Nishimura, Aiko Imai, Masahiro Fujimoto. ほか4名 pp. 227-232 |
| | 地域在住女性高齢者における身体活 動の種類・強度と2年後の抑うつ症状 との関連. (査読付) | 共 | 2020年8月 | 「理学療法科学」 第35巻 | 今井あい子, 真田樹義, 木村大介, 栗原俊之. pp. 533-539 |
| | グラフ理論に基づくネットワーク解 析を用いた認知症 BPSD に対する行動 パターンの分析. (査読付) | 共 | 2020年4月 | 「BIO Clinica」 35(4) | 木村大介, 備前宏紀, 今井あい子 |

| 区分 | 著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称 | 単・共 | 発行・発表年月(日) | 発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名) | 備考 |
|-----------------------------|---|---------|------------------|---|---|
| 論文 | Toe flexor strength is associated with mobility in older adults with pronated and supinated feet but not with neutral feet. (査読付) | 共 | 2020年9月 | 「Journal of Foot and Ankle Research」13(1) | Yuki Kusagawa, Toshiyuki Kurihara, <u>Aiko Imai</u> , Sumiaki Maeo, Takashi Sugiyama, Hiroaki Kanehisa, Tadao Isaka. pp. 1-8 |
| | Effects of Gait and Activities of Daily Living Modifications for Improving Knee Joint Function in Community-Dwelling Middle-Aged and Older People - A Randomized Control Study. (査読付) | 共 | 2021年2月 | 「Journal of Musculoskeletal Research」24(02): | Susumu Ota, Remi Fujita, Hiroshi Ohko, <u>Aiko Imai</u> . e2150007 |
| | 在宅復帰後の作業参加とストレスに関する検討. (査読付) | 共 | 2021年4月 | 日本作業療法士協会「作業療法」第40巻 | 石川真太郎, 木村大介, <u>今井あい子</u> . pp. 262-266 |
| | グラフ理論に基づくネットワーク解析を用いた認知症高齢者の行動パターンの解析. (査読付) | 共 | 2021年4月 | 「老年精神医学雑誌」第32巻(7) | 木村大介, 備前宏紀, 藤井啓介, <u>今井あい子</u> , 富山直輝. pp. 779-784 |
| | Causal Relationship Between Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia and Autonomic Nervous Activity: A Covariance Structure Analysis. (査読付) | 共 | 2021年7月 | 「International journal of rehabilitation」7(4) | Daisuke Kimura, Hiroki Bizen, <u>Aiko Imai</u> . |
| | 「目的」や「意味」を持つ“作業”に焦点をあてた介入による自律神経活動の変化 (査読付) | 共 | 2021年8月 | 岐阜県作業療法士会「岐阜作業療法」第21巻 | 田原涼馬, 木村大介, 石川真太郎, <u>今井あい子</u> . pp. 12-17 |
| | 地域在住高齢者における意味のある作業の参加に関連する要因. (査読付) | 共 | 2022年6月 | 「地域ケアリング」第24巻(8) | <u>今井あい子</u> , 木村大介, 坂田裕香. |
| | 地域在住高齢女性における静的バランスと動的バランスの関連性. (査読付) | 共 | 2022年9月 | スポーツ健康科学研究 44巻 | 禿隆一, 北林由紀子, <u>今井あい子</u> , 加藤芳司, 藤田英二, 竹島伸生, イスラム MM. pp. 11-19 |
| | Qualitative assessment of standing motion with kinect™ is a useful additional diagnostic marker for sarcopenia. (査読付) | 共 | 2022年12月 | Archives of gerontology and geriatrics 108 | Yosuke Osuka, Nobuo Takeshima, Narumi Kojima, Takeshi Kohama, Eiji Fujita, Masanobu Kusunoki, <u>Aiko Imai</u> , Yukiko Kitabayashi, William F Brechue, Hiroyuki Sasai. e104915 |
| | Interaction between sarcopenic obesity and non-locomotive physical activity on the risk of depressive symptoms in community-dwelling older Japanese women. (査読付) | 共 | 2023年1月 | Journal of Aging and Physical Activity 17 | Yu Osugi, <u>Aiko Imai</u> , Toshiyuki Kurihara, Keiko Kishigami, Kazuhiko, Kiyoshi Sanada. pp. 1-7 |
| 地域在住高齢者の意味のある作業への参加を促進するには？ | 共 | 2023年3月 | 「地域ケアリング」第25巻(4) | <u>今井あい子</u> , 木村大介, 坂田裕香. | |

| 区分 | 著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称 | 単・共 | 発行・発表年月(日) | 発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名) | 備考 |
|---|---|---------|-------------------|---|--|
| 論文 | 地域在住高齢女性における身体活動推奨値に関連する要因。(査読付) | 共 | 2023年3月 | 鈴鹿医療科学大学紀要 | 今井あい子, 真田樹義, 森嶋亜加音, 伊藤結稀, 栗原俊之, 木村大介. |
| 学会発表 | 認知症高齢者の活動的反応と維持的反応が認知機能に与える影響についての検討 | 共 | 2018年9月 | 第52回日本作業療法学会(名古屋) | 木村大介, 富山直輝, 今井あい子, 備前宏紀. |
| | 複合的な要因で起立性低血圧が長期的に残存した患者に対する自宅ADL再獲得を目指した作業療法 | 共 | 2018年9月 | 第11回東海北陸作業療法学会(福井県) | 横井亜加音, 今井あい子. |
| | 地域在住自立高齢女性の抑うつに関連する身体活動の強度とタイプ(筆頭著者) | 共 | 2019年9月 | 第53回日本作業療法学会(福岡県) | 今井あい子, 真田樹義, 木村大介, 栗原俊之. |
| | 高次脳機能障害者に対する実車評価の現状と課題 | 共 | 2019年9月 | 第53回日本作業療法学会(福岡県) | 石川稜馬, 今井あい子. |
| | 在宅復帰後の作業遂行とストレスに関する検討—自記式作業遂行指標(SOPI)と心拍変動解析を用いて— | 共 | 2019年9月 | 第53回日本作業療法学会(福岡県) | 石川真太郎, 木村大介, 今井あい子, 山田和政. |
| | 心拍変動解析による自律神経活動からみたストレス状態がその後のBPSDに与える影響 | 共 | 2019年9月 | 第53回日本作業療法学会(福岡県) | 木村大介, 備前宏紀, 富山直輝, 今井あい子. |
| | 地域在住女性高齢者における身体活動の種類・強度と2年後の抑うつ症状との関連(筆頭著者) | 共 | 2020年9月 | 第54回日本作業療法学会(新潟県) | 今井あい子, 真田樹義, 栗原俊之, 木村大介, 北林由紀子. |
| | センシングデータを用いた認知症高齢者の行動パターンの分析 | 共 | 2020年9月 | 第54回日本作業療法学会(新潟県) | 木村大介, 備前宏紀, 今井あい子, 富山直輝. |
| | 意味のある作業への参加が身体活動量に与える影響—健康高齢者を対象とした3年間の縦断研究—(筆頭著者) | 共 | 2021年9月 | 第55回日本作業療法学会(宮城県) | 今井あい子, 木村大介, 真田樹義, 栗原俊之, 富山直輝. |
| | グラフ理論を用いたネットワーク解析に基づく認知症高齢者のQOLの状態による行動パターンの特徴 | 共 | 2021年9月 | 第55回日本作業療法学会(宮城県) | 木村大介, 塩津裕康, 備前宏紀, 今井あい子, 富山直輝. |
| | The Interrelationship between participation in meaningful activities and physical activity: A three-year longitudinal study of healthy older adults. (筆頭著者) | 共 | 2022年8月 | 18th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists (WFOT) (Paris, France) | Aiko Imai, Daisuke Kimura, Kiyoshi Sanada, Toshiyuki Kurihara, Naoki Tomiyama. |
| 認知症高齢者の行動パターンの類型化と予測—クラスタ分析とネットワーク解析による行動パターンの類型化と決定木分析による予測— | 共 | 2022年9月 | 第56回日本作業療法学会(京都県) | 木村大介, 備前宏紀, 今井あい子, 富山直輝. | |